



NGO ミクロネシア振興協会ニュース Non-Governmental Organization Association For Micronesian Development News

発行者 NGO AMD
発行責任者 上村 茂

ミクロネシア連邦へのご案内

トラック諸島は周囲200Kmの珊瑚環礁に囲まれています。空の青さと海の黄緑・藍色・群青色、太陽と風と積乱雲。



絵に描いたような小さな珊瑚礁島・ジープ島

群青色の海と親しみやすい人々

小さなサンゴ礁の島で終日過ごしてみませんか AMDが企画するミクロネシア連邦を知る旅 ダイビングそして島巡り

太公望もびっくりの釣り

ミクロネシアの人々との交流、環境を大事にした旅は ご連絡下さい。私達 AMDへ



トラック空港着陸



ポンペイ州巨石遺跡ナン・マンナドール



ポンペイ州アンツー環礁周辺をシュノーケリング

日本の自然環境の大切さを教えられる旅、
私達の豊かさを自分の中にもう一度探す旅でもあります。



民族舞踊



トラック島 ブルーラグーンリゾート・ホテルの庭から



ミクロネシアの空は

ハイビスカスの赤が似合う

コラム ポンペイ・カセレル

それは素敵なポンペイ

コト・モゲ！(Kohto Mwonge!)

カセレーリエ！(Kaselehlie!)この言葉はここポンペイの日常の挨拶です。『こんにちは！』の意味で、この一言から会話が始まります。そして、このカセレーリエの次によく耳にする言葉は、コト・モゲ！(Kohto Mwonge!)です。町を歩いていて聞く言葉ではありませんが、現地の方と知り合いになった後、その方の家に呼ばれたときやちょっと顔を出しに寄ったときなどに、その家の方から必ず言われる言葉です。これはどういう意味かといいますと、『家へ上がって、食べていきなさい！』という感じです。それは食事時であるとは限りません。『こんにちは！』の後にセットで付いてくる『食べていきなさい！』なのです。私は当地に暮らして、裏面へ

ポンペイ港に入港する船が最初に目にする光景



表面からけっこう長くなりますが、最初の頃は『そんなこと言われても、今お腹空いてないし。。。』とか『ご飯食べたばかりだから、食べられないよー。』とか、いちいち反応していたのですが、様子を見てみると、その家のお昼ご飯や夕飯時であれば、訪ねてきた人はどなたでも、ウェル・カム！、一緒にお食事をしますし、また、そうでない時間帯でも、残り物やドーナツ、パン等が食卓にあれば、必ず勧められます。きっと迎えてくれる家の方々は、『よく来て下さいました』



バレーボールに夢中の少年達

という意味で、お客様をお持てなししているのだと思います。私などは、突然ポンペイ人のお客様が家に来ると『そんなにたくさん料理してないのに、どうしよう』とよく思ったものですが、無ければそれでそんな神経質になることもないのだ、とこちらの方々の対応振りを見ていて分りました。あれば分ち合おう、無ければ無いで仕方がない、来る者は拒まず、これがポンペイ・スタイルなんだなあと何となく分ってきた今日この頃です。……それでは今回は、ここまでとします。次回またお会いします(S)



マングローブ蟹

第14次訪問団報告[2003. Nov/20-28]

第14次訪問団が、ミクロネシア連邦首都のポンペイ州をスタートに訪問しました。その目的は支部設立の披露レセプション開催、各種物産と物価等の調査やチューク州の学校への支援を行う為です。結果は、目的が達成され、次のステップに向けての活動を開始していく事となりました。



日本大使館への表敬訪問

川嶋事務局長 秋永支部長 岡田氏 上村会長



第2回運営委員会(イン ポンペイ州)
秋永支部長以下主だったメンバー

日本大使館公邸にて安井臨代、ローリンロバート次官、訪問団(上村、岡田、桜井、川嶋)、秋永兄弟、記者



ローリン ロバート外務次官
(連邦政府への表敬訪問)



マスコミとの懇談



第2回運営委員会(イン チューク州)
Suka 副支部長以下主だったメンバー

今回の訪問でミクロネシア連邦NGO AMD-Fsm支部の第2回運営委員会がポンペイ州、チューク州にて開催されました。そこで確認されたのは次の内容です。今後の活動重点は、先ず第1として事業家支援のプロジェクトを立上げる事です。具体的には、自動車修理工場(首都ポンペイ州には7,000台、ほとんどが中古車)の板金技術のスキル向上プロジェクトです。

第2は、修理工場プロジェクトと関連させつつ環境問題に密接しているスクラップ自動車の回収と解体と資源化プロジェクトの立上げです。そして健康・衛生問題に関してのプロジェクトの展開です。この健康問題は深刻であり食生活と農業関係(野菜が少ない、胡椒等の現有産物支援)も視野に入れた取組み課題です。

中長期的な課題として、今後取組みを進めていく活動の一つは、リタイアメントプログラム(年金受給者の長期滞在)です。日本の年金額(試算されている減額の場合も含)で長期滞在でき、滞在中に各々の持っている能力(技術・知識・経験)をボランティア活動に生かせる機会を作ること私達の事業になると考えています。団塊世代は、新しい地でその能力が求められています。来年早々からその検討に入る予定です。



チューク州副知事と会談